

食物栄養学科

【2017年度以降入学生適用】

教育目標

ライフステージに応じた栄養・調理の知識、技術を修得し、少子高齢社会において一人ひとりのライフスタイルに即した健康管理に貢献できる栄養士を育てます。また、幅広い教養と倫理観を修得することにより、社会人としての良識と判断力を持った積極的で心温かい人材を養成します。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

本学科では、2年以上在学し本学の課程を修め、かつ次のような資質・能力を備えた者に短期大学士(食物栄養学)の学位を授与します。

態度・志向性

1. 本学の「建学の精神」および本学科の「教育目標」を修得している。
2. 自ら適切な食生活を実践できる自己管理能力・協調性・リーダーシップ・倫理性を有し、社会に貢献したい強い意思を持っている。

知識・技能

1. 人の健康と栄養、食品知識、調理法、食の安全、基本的な語学力、社会人としての倫理と教養など、栄養士としての基礎的知識と技術および社会人を修得している。
2. ライフステージや多様なライフスタイルに対応した栄養指導、多彩な調理法と給食に関する基本的な知識と技術、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を修得している。

実践力・応用力

1. 栄養士が活躍する多様な現場で、その状況に応じた適切な対応ができる応用力と実践力を修得している。
2. 社会全般においても、「食」のスペシャリストとして人々の健康増進に寄与できる応用力と実践力を発揮できる。

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

本学科では、厚生労働省が「栄養士養成施設の指定基準」として定めている教育内容と単位数を充足したうえで、本学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）に掲げる知識・技能などの修得目標を達成するために、教養科目、専門科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

態度・志向性

1. 本学の「建学の精神」および本学科の「教育目標」を会得するとともに、学生としての学修・生活

態度を修得するために、初年次教育教科として「大学基礎演習」を配置する。

2. 栄養士として社会に貢献する使命感や倫理観、ならびに自らの食生活についても主体的に適切な食生活に行動変容できる自己管理能力を有する栄養士を養成するために、「栄養士基礎講座」および「栄養士総合講座」を配置する。

知識・技能

1. 栄養士としての基礎的知識と技術および社会人を修得させるため、これらに対応する基礎的な専門的知識及び技術に関する教科、および主体的に選択できる一般教養・語学教科を配置する。
2. 多様なライフステージに対応できる栄養指導、献立作成、調理法、集団給食の知識と技術、コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力などを修得させるためのアクティブ・ラーニングを活用した発展的専門教科を配置する。

実践力・応用力

1. 栄養士が主として活躍する集団給食施設や食品企業などの多様な現場で、その状況に応じた適切な対応ができる応用力と実践力を修得させるキャリア教育教科を配置する。
2. 「食や健康」のスペシャリストとして幅広い知識、技術を身につけるために、フードスペシャリストの資格を取得するための教科を配置する。

学修成果の評価は、シラバスに記載した各科目の到達目標に基づき、その到達度に応じた成績評価基準を設けて適正に行います。

アドミッションポリシー（入学者の受入方針）

食物栄養学科（以下、「本学科」という）では、社会で活躍できる栄養士を育成するため、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

1. 高等学校卒業レベルの教養的知識と技能、語学力ならびに科学的知識を有している人
2. 種々の課題に対する思考力・判断力・表現力等の基本的能力、および主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけている人
3. 自然科学系教科および人の健康・栄養に関心があり、さらに深く学ぶ気持ちがある人
4. 栄養士になるための「食」に関する専門知識と技術を修得する強い意欲がある人
5. 自主的に行動できるよう心がける姿勢や、基本的なコミュニケーション能力を身につけている人

【入学前の学習について】

1. 栄養士の社会的役割や業務内容と職域などの概要を調べると同時に、栄養士になるために学修しなければならない知識・技能範囲の大略を理解しておくことが望まれる。
2. 社会における「食」に関する様々な問題に対して興味と関心を持って自分自身で調べておくことが望まれる。
3. 入学後に必要な基礎的知識を身につけるために、本学科が行う入学前教育に積極的に取り組むことが望まれる。